



日高山脈館だより

HIDAKA MOUNTAINS MUSEUM NEWSLETTER

第3号 2010.8.

「日高の地質を歩く」開催しました。

日高の地質を、専門家の解説のもと見学！

7月4日にネイチャーセミナー第2回「日高の地質を歩く」を開催しました。珍しい日高の地質スポットのなかから、比較的移動しやすい数箇所をバスで移動し、専門家の加藤孝幸氏がそれぞれの地点で解説を行ない、見学するというスタイルでした。

参加者は町外の方が多かったのですが、“新たな知識が加わった”“知識がより深まった”“このような見学会は、そこにしかないものを感じることができる。ぜひ広く周知して欲しい”という感想も多く聞かれました。

ただ、珍しい日高の地質は、珍しいがゆえ複雑でもあるということで、未だ研究途上の部分が数多く残っています。そういった複雑な部分もわかりやすく解説することができれば、参加者の層を広げることができ、日高の地質の魅力を広く周知できると考えています。最後に、岩内岳の採石場への立ち入りを許可していただいた株式会社ハタナカ昭和のみなさま、ありがとうございました。



日高山脈ネイチャーセミナー 2010 第4回「秋のペンケヌーシ岳を登ろう」
9月26日開催！ くわしくは山脈館まで！

特集 『ジオパーク』 ②

ジオパークの基盤は“地質”や“岩石”

言うまでもなく、ジオパークのベースは「地質」や「岩石（石ころ）」です。なぜなら、多くの自然や動植物、そして文化でさえも、地球の表面＝地面に根付いているものであって、地面を構成するものが、岩石や地層だからです。しかも、それらは地質や岩石と大きくかかわり合っています。まさに、ジオパークと地質や岩石（石ころ）は切り離せないものであるのです。

植物は動くことができないので、生えている場所の地質や岩石に大きく影響されます。たとえば、かんらん岩や蛇紋岩の見られる地域には特有の植生があります。ジオパークとなっているアポイ岳はかんらん岩でできていて、その植生はたいへん特殊なもので、国の特別天然記念物にも指定されています。しかし、かんらん岩・蛇紋岩地域の植生が他地域と違うことは、かんらん岩・蛇紋岩地域の研究者やそこに住んでいる人は知っていますが、それ以外ではあまり知りません。

また、登山を趣味としている人は、同じ高山でもコマクサの生えているところと生えていないところがあることを知っています。たとえば日高山脈では、ペンケヌーシ岳にのみ生えていて、ほかの山では見かけないことを知っている人は多いです。しかし、その違いが山を形成している岩石に左右されるらしいことを知っている人は多くありません。また、高山植物が崖錘の多い地形によく見られることを知っている人も多くはありません。

植物や動物が好きで山歩き里歩きをする（エコツーリズムといいます）人も多いです。この人たちが「ジオ（地質や岩石）」の知識を持つことで、エコツーリズムとジオを結びつけることができます。去年は「日高山脈の登山とその地質」というテーマで講演もさせていただきました。「エコツーリズム+ジオ」という動きを起すことによって、より多くの人にジオの魅力を伝えられるのではないかと考えています。



※ジオパーク運営の中心組織ではありません。

(次号に続きます)